

自民党自動車議連 総会及び政策懇談会開催

総会で「モビリティを軸に成長する 未来社会を考える会」設立を報告

自動車議員連盟 及び自動車政策懇談会



政策懇談会で内山田会長が 「走行距離課税やEV・FCVの出力課税は断固反対」と主張

政策懇談会で挨拶に立つ当会議所の内山田会長

自 民党自動車議員連盟と自動車関係15団体との政策懇談会が11月21日、東京・千代田区の自民党本部で開催されました。出席団体からは税制改正要望に加えて、コロナ禍による深刻な影響についての状況説明や支援要請の訴えが数多く述べられるとともに、従来の自動車産業の枠を超えた新たなモビリティ社会を見据えて、中長期的な税のあり方の議論を求める主張も相次ぎました。

政策懇談会に先立ち、佐藤信秋議連事務局長の進行で自動車議連の総会が開催され、冒頭、額賀福志郎議連会長が挨拶しました。額賀会長は、「気候変動に伴う電動化改革、そしてAIやIoTを活用した新しいサービス、いわゆるCASEなどへの対応が求められている自動車産業は、どういう新たな価値観を生み出して産業を変えていくのかという大きな問題に直面しています。われわれ議連としては、どういう課題や問題があるのか骨太の議論をしていく必要があります」との認識を示し、「税制においてもエネルギー改革や燃料改革、電動化、自動運転などに向けて、中長期的な税制のあり方をわれわれ議連で議論し、政府に要望していかなければなりません」と述べました。

続いて、本自動車議連に「モビリティを軸に成長する未来社会を考える会」が新たに設立されたことが報告され、同会会長に就任した甘利明議連連産委員長が設立趣旨などを説明しました。甘利同会会長は、世界の自動車産業が大きな岐路に立っている現在、欧米や中国などによる、新たなモビリティ社会



額賀議連会長

に向けた主導権争いが激化していることが設立の背景にあるとして、2つの重要なテーマを挙げて次のように話しました。

「一つは、EV以外の選択肢で生き残ることができるか、ということです。日本は内燃機関系のアドバンテージによって世界に冠たる自動車王国を創ってきました。しかし、EV関連で若干のアドバンテージを持っているEUに席卷されて、現在の構図が一変する危険性があるわけです。米中にもEUと同調するような動きがあります。ただ、内燃機関系の環境性能が劣っているのではなく、問題は燃料にあり、環境性能に優れた燃料に転換できれば、日本は世界最高性能の環境対応車つくることができるといった考え方もあります。そこで多様な選択肢で生き残っていくという日本の流れを、国際的な流れにしていく戦略も必要です。



「未来社会を考える会」設立趣旨などを説明する甘利同会会長

もう一つは、モビリティの未来はどうなっていくのかを見据えることです。単に人が快適に移動するだけなのでしょう。リビングルームが移動する、オフィスが移動する、レンタルルームが移動する未来など、さまざまな未来像が考えられています。その未来を設計し、そこからバックキャストして2050年、2030年を見通し、そのときにマジョリティを取るためにいまから何をすべきかを考えていく必要があります。

このようにハードとソフトの両方の形態から、未来のシェアを取っていくという視点に立って、この未来社会を考える会を進めていきます」

総会の後、引き続き政策懇談会が開催され、出席団体を代表して当会議所の内山田竹志会長＝**挨拶要旨は4ページに掲載**＝が挨拶に立ち、「政府・与党の多大なご尽力の結果、経済活動に活気が戻りつつありますが、依然として、バス・タクシー・トラックなどの運輸関係をはじめ、多くの団体・企業が極めて深刻な状況にあることには変わりはありません」として、自動車関係諸税の負担軽減・簡素化などを要望しました。そのうえで内山田会長は、「モビリティがもたらす新たな経済・社会像を見据えて、自動車の枠にとどまらない幅広い議論が求められており、負担軽減・簡素化を前提に、受益と負担の関係を再構築し、税体系を抜本的に見直すべきであると考えております」と述べ、長期的な税のあり方を早急に議論し始めるよう求めました。また、喫緊の課題であるとして当会議所では「自動車業界緊急要望」＝**5ページに全文掲載**＝を提出しており、内山田会長は「エコカー減税等は現行水準で据え置くなど確実に延長すべき」と要望したほか、「走行



政策懇談会を総括する塩谷議連幹事長

距離課税やEV・FCVの出力課税など、穴埋め増税には断固として反対することを強く主張したいと思っています」と訴えました。

続いて、日本自動車工業会をはじめとする各団体が、順次、業界の現況や税制課題などについて説明し、支援や要望などを訴えました。この後、経済産業省から報告があり、山下隆一製造産業局長は、短期・中期・長期の要望ポイントを説明し、短期については「納期の問題もあり、エコカー減税は現行制度を1年間は据え置き、2024年度は対象車両の割合7割を維持しつつ見直す」ことを要望しました。

この後意見交換に入り、出席議員から多くの質疑や意見が表明され、時間の関係から、後日、議連事務局や団体側から回答されることとなりました。最後に、塩谷立議連幹事長が「間違いなく大変大きな転換点にあるということ（本日の政策懇談会で）改めて認識しました。エコカー減税は現行制度の維持、走行距離課税は慎重に検討、モビリティ社会に向かって根本的な議論をすべきといったご意見をいただきましたが、われわれ自動車議連は業界にしっかりと寄り添って、将来のモビリティ社会を見据えた議論を続けていきたいと思っています」と総括し、政策懇談会は閉会しました。

【経済産業省出席者】

▽山下隆一製造産業局長、▽藤本武士審議官、▽清水淳太郎自動車課長

【団体側出席者】15団体32名

▽自工会＝長田准総合政策委員長、後藤収税制部会長、永塚誠一副会長・専務理事、▽自販連＝金子直幹会長、佐藤康彦副会長、小糸正樹副会長・専務理

日本自動車会議所 内山田 竹志会長 挨拶要旨

政府・与党におかれましては、新型コロナウイルス感染防止対策をはじめ経済支援など、多大なご尽力をいただいております。その結果、経済活動に活気が戻りつつありますが、依然として、バス・タクシー・トラックなどの運輸関係をはじめ、多くの団体・企業が極めて深刻な状況にあることには変わりはありません。また、歴史的な円安やウクライナ情勢の影響により、半導体・部品などの供給制約や、資材・エネルギー価格の高騰が続いており、クルマを造ることができない・売ることができないという異常事態が続いております。



日本の自動車産業は、幅広い分野に関係する「基幹産業」として、日本経済へ貢献し、国内の生産活動を維持・拡大してまいりました。今後さらなる発展のため、観光・通信・ITなど、モビリティに関連する新しい仲間との協創により、モビリティ産業として、将来にわたって日本経済の軸として成長し、さまざまな社会課題の解決や新しい価値を創造してまいります。

これにより、モビリティに関わるすべての産業の成長のパイが拡がり、人々の暮らしを豊かにするとともに、日本の成長にも繋がっていくと思っております。

また、一方で、自動車産業は、GX(グリーン・トランスフォーメーション)やDX(デジタル・トランスフォーメーション)による100年に一

度と言われる大変革期に直面しており、CASEや2050年カーボンニュートラルの実現といった課題とも向き合っております。このような大変革期は、過重で複雑な自動車関係諸税を抜本的に見直す大きなチャンスでもあります。

長期的には、モビリティがもたらす新たな経済・社会像を見据えて、自動車の枠にとどまらない幅広い議論が求められており、負担軽減・簡素化を前提に、受益と負担の関係を再構築し、税体系を抜本的に見直すべきであると考えております。中期的には、引き続き「自動車重量税の将来的な廃止」「燃料課税の見直し」とともに、保有全体の電動化促進を目指した税制の実現を強く求めています。

一方、足元の短期では、自動車市場の活性化という観点からも、エコカー減税・グリーン化特例の延長・拡充を自動車業界として切に要望しており、お手元にごぞいます「緊急要望」にもまとめているところです。

厳しい物価高と、年度をまたぐような納期長期化に直面する消費者の負担増を回避するため、実質的な増税となるような対象絞り込みは行わず、エコカー減税等は現行水準で据え置くなど、制度を確実に延長すべきです。また、走行距離課税やEV・FCVの出力課税などの穴埋め増税には断固として反対することを強く主張したいと思います。

先ほど、「モビリティを軸に成長する未来社会を考える会」の甘利会長からも、同会設立をはじめ、大変心強いお話をいただいたと思っております。

自動車議連の皆さまには、引き続き特段のご対応を賜りますよう重ねてお願い申し上げます、私からのご挨拶とさせていただきます。

事、▽全ト協＝浅井隆副会長、榊野龍二理事長、▽日バス協＝早川弘之税制対策委員長、石指雅啓理事長、▽全タク連＝伊藤宏副会長・総務委員長、神谷俊広理事長、▽全軽自協＝赤間俊一会長、成瀬修副会長、板崎龍介専務理事、▽中販連＝海津博会長、永井保典専務理事、▽輸入組合＝入野泰一副理事長・専務理事、小野寺誠会員業務部部长、▽部工会

＝大下政司副会長・専務理事、持丸慶業務部長代理、▽日整連＝橋本昭朗専務理事、齋藤裕人事務局長、▽全レ協＝岩崎貞二会長、▽車工会＝吉田量年専務理事、小森啓行業務部長、▽通運連盟＝川勝敏弘理事長、高木修総務部長、▽全自協＝熊谷純一専務理事、土橋利朗専務理事、▽会議所＝内山田竹志会長、山岡正博専務理事